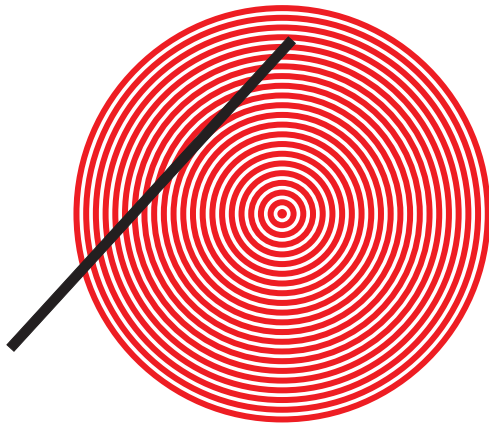


平成27年度[第19回] 文化庁メディア芸術祭
7月7日(火)より作品募集をスタートします。



第19回 文化庁 メディア芸術祭

19th JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

文化庁メディア芸術祭実行委員会は、平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭を開催します。

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性や創造性をもつ優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。昨年度[第18回]は、世界71の国と地域から3,853点に及ぶ作品の応募があり、なかでも国内からの応募数は2,035点と過去最多となりました。文化庁メディア芸術祭は多様化する現代の表現を見据える国際的なフェスティバルへと成長を続けています。

19回目となる今年度は、7月7日(火)より作品募集を開始します。アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で過去1年間(2014年9月3日～2015年9月9日)までの間に完成、または、すでに完成してこの期間内に公開された作品を対象に、プロ、アマチュア、自主制作、商業作品を問わず、世界中から広く作品を募集します。審査委員会による審査を経て、各部門の大賞、優秀賞、新人賞、審査委員会推薦作品と、功労賞を11月下旬に発表いたします。

募集期間：2015年7月7日(火)～9月9日(水)日本時間 18:00 必着

今年度も、作品募集からスタートします。

インタラクティブアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガをはじめとするメディア芸術の広範な表現による多彩な作品をお待ちしております。

広報問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 広報担当[hilo Press内]鎌倉・土井・伊藤

Email : jmaf19-pr@hilopress.net Tel : 03-5577-4792 Fax : 03-6369-3596 ※受付時間：平日10時～18時

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-11-905



昨年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子

昨年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子
(左)作品『Nyloid』、(右)作品『Drone Survival Guide』

1. 文化庁メディア芸術祭について

■ 同時代の表現の諸相をうつす “メディア芸術”

新しいメディアとともに発展する表現＝「メディア芸術」。デジタル技術(＝ニューメディア)を手法とする作品や、出版や配給等のコミュニケーションメディアによって拡張を遂げるマンガ、アニメーションは、既存の芸術概念に留まらない新たな文化を創成しています。情報技術やデジタル技術を駆使した表現や、印刷・映像技術とともに普及する作品は、現在のテクノロジーや社会状況に批評的な視点を与え、多様化する価値観に対し想像力の共有をもたらします。「メディア芸術」は、現在に起こる新たな創作活動を芸術へと媒介し、さらには次代に続く文化を醸成する媒体として、同時代の表現の諸相をうつしだします。

■ ボーダレスに表現と向き合い、“現在”を見出すフェスティバル

文化庁メディア芸術祭は、情報技術やメディアの上に生まれる多様な表現活動に対し、“現在”を問い続けるフェスティバルです。世界各地から集うたくさんの作品は、複製技術の拡大と浸透によって変化する思考やコミュニケーションの様式を反映し、既存の手法や形式に留まらない多様な表現のあり方を提示します。本フェスティバルでは、優れたメディア芸術作品の顕彰を通して、時代とともに更新する創造活動に“現在”を見出し、受賞作品展を通じ、その作品群を広く紹介します。メディア芸術作品が有するリアリティや個人の創造性からは、同時代の芸術や文化をより深く理解するための新たな発見があるでしょう。

・ 各賞 受賞発表は11月下旬を予定しています。

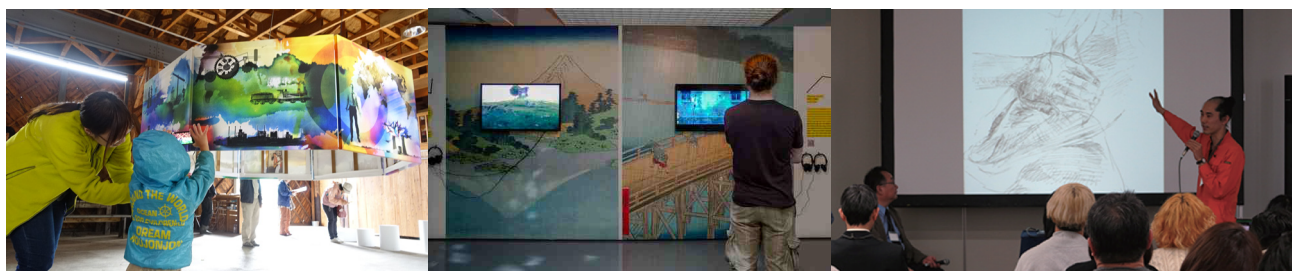
高い芸術性と創造性を基準として、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞の他、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定します。また、審査委員会の推薦により、メディア芸術分野に貢献のあった方に対して、功労賞を贈呈します。



昨年度 [第18回] 文化庁メディア芸術祭 贈呈式の様子 文化庁メディア芸術祭 トロフィー

■ 受賞作品は国内外で広く紹介されます

文化庁メディア芸術祭での受賞は、海外のフェスティバルへの出展や創作活動の支援等、関連事業を通じた新たな活動にもつながります。「文化庁メディア芸術祭地方展」では、受賞作品を中心に優れたメディア芸術作品を展示・上映し、「海外メディア芸術祭等参加事業」では、海外のメディア芸術関連のフェスティバル等に参加し、受賞作品等を紹介します。また、「メディア芸術クリエイター育成支援事業」は、文化庁メディア芸術祭において受賞もしくは審査委員会推薦作品に選ばれた若手クリエイターを対象に、新しい作品の企画を募り、制作費の支援をはじめ、専門家からのアドバイスや技術提供・成果発表の機会の提供等、選出された企画の具体化を様々な形で支援します。



文化庁メディア芸術祭十勝・帯広展(2014年度)

海外メディア芸術祭等参加事業(2014年度)
「Where Heaven meets Earth」FILE2014(ブラジル)
©Camila Picolo

メディア芸術クリエイター育成支援事業(2014年度)

平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭 開催概要

作品募集	2015年7月7日(火)～9月9日(水) 日本時間 18:00 必着
受賞発表	2015年11月下旬
贈呈式	2016年2月2日(火) 会場：国立新美術館(東京・六本木)
受賞作品展	2016年2月3日(水)～2月14日(日) 会場：国立新美術館(東京・六本木) 他 ※国立新美術館は2月9日(火)休館 他会場については決まり次第、フェスティバルサイト等でお知らせします。
文化庁メディア芸術祭 公式ウェブサイト	http://j-mediaarts.jp
フェスティバルサイト	http://festival.j-mediaarts.jp
Facebook	http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival
Twitter	@JMediaArtsFes
主催	文化庁メディア芸術祭実行委員会
問合せ先	文化庁メディア芸術祭事務局[CG-ARTS協会内] E-mail： jmaf@cgarts.or.jp Tel：03-3535-3501 ※受付時間：平日10時～18時

2. 募集作品について 時代を映し出す新たな表現を募集します。

昨年度[第18回]は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において、下記をはじめとする多様な作品が受賞しました。

アート部門：

本部門には、テクノロジーとともに新たな価値観を探り、批評的な視点をもつ様々な表現が集います。インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、映像インスタレーション、グラフィックアート(デジタル写真を含む)、ネットアート、メディアパフォーマンス等、既存のジャンルを越境する意欲的な作品の応募をお待ちしています。

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭
アート部門 優秀賞受賞作品

人間が知覚できない電磁波を感知(センシング)し可視化・可聴化する
インスタレーション作品。

『センシング・ストリームズ — 不可視、不可聴』

メディアインスタレーション

坂本 龍一 / 真鍋 大度 [日本]

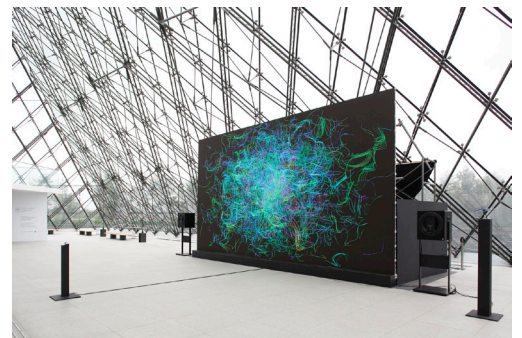


Photo : Keizo Kioku, Courtesy of Creative City Sapporo International Art Festival Executive Committee

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭
アート部門 優秀賞受賞作品

動きに連動する音響装置を携えた長さ6mの脚を持つナイロン製の
トライポッド(三脚)が、まるで巨大な生物のように、複雑かつ有機的な
動きと音を生み出す音響彫刻。

『Nyloid』

メディアパフォーマンス

Cod.Act (Michel DÉCOSTERD /

André DÉCOSTERD) [スイス]



Photo : Xavier Voirol

エンターテインメント部門：

本部門には、遊びや体験をつくりだす多種多様な形式の作品が集います。ゲーム作品や、ミュージックビデオ、自主制作・広告映像、ガジェット、ウェブプロモーション、オープンソースプロジェクト、アプリケーション等、創意あふれる作品の応募をお待ちしています。

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭
エンターテインメント部門 大賞受賞作品

文化的なランドマークや、歴史的な場所、ユニークな建築物といった実在の場を取り
込んで、現実の世界を多数の同時参加型ゲームへと変えるモバイルアプリケーション。

『Ingress』

ゲーム、アプリケーション

Google's Niantic Labs (創業者：John HANKE) [米国]

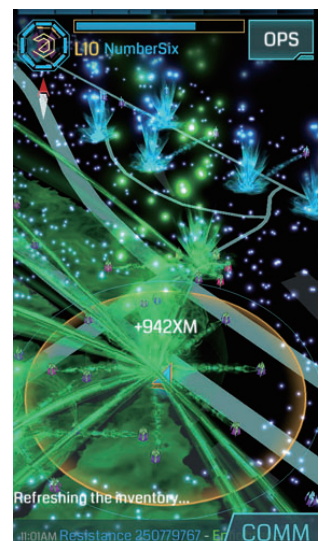


Photo : Google's Niantic Labs

アニメーション部門：

本部門には、圧倒的な物語や個性的な表現力をもった、完成度とオリジナリティを極めた作品が集います。劇場アニメーション、短編アニメーション、テレビアニメーション、オリジナルビデオアニメーション等、手描きによる作画からフル3DCG、それらを融合させた技法まで幅広い作品の応募をお待ちしています。

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭
アニメーション部門 大賞受賞作品

心の傷(英・wound ウウンド)に苦しむ少女の傷が
空想の中で、毛むくじらの生き物・ウウンドとして
誕生して繰り広げられる物語。

『The Wound』

短編アニメーション

Anna BUDANOVA [ロシア]



©Ural-Cinema

マンガ部門：

本部門には、ネットや電子媒体による発表形態の多様化に伴い、マンガの可能性を拡張するような作品が多く集まります。単行本で発行されたマンガ、雑誌等に掲載されたマンガ、ネット上で発表されたマンガ、同人誌等の自主制作のマンガ等、世界に届くパワーあふれる作品の応募をお待ちしています。

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭

マンガ部門 大賞受賞作品

津原泰水の傑作幻想譚(たん)が、近藤ようこの手によって儚くも鮮烈に
マンガ化された作品。先の見えない戦時下、太平洋戦争末期を時代背景に、
見世物小屋の一座として糊口をしのぐ異形の者たちの哀切な運命が
描かれた作品。

『五色の舟』

近藤 ようこ/原作：津原 泰水 [日本]



近藤ようこ・津原泰水/KADOKAWA 刊

注目の作品を教えてください。

同時代の優れたメディア芸術作品の応募を促進するため、フェスティバルサイトにて、メディア芸術作品の情報をみなさまから広く受け取ります。いただいた作品情報は、事務局にて調査を実施し、作品応募へとつなげます。

※歴代受賞作品等は、アーカイブサイト (<http://archive.j-mediaarts.jp>) でご確認ください。

3. 応募方法 フェスティバルサイトよりご応募ください。

応募申込、作品応募はフェスティバルサイト (<http://festival.j-mediaarts.jp>) で手続き可能です。応募申込として必要情報を入力し、審査用資料のデータをアップロードすれば完了です。また、配布中の募集要項に添付された応募用紙を同封し、郵送で応募することも可能です。

※応募方法等の詳細は、フェスティバルサイト (<http://festival.j-mediaarts.jp>)、募集要項でご確認ください。

4. 平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭実行委員会

会長 青柳 正規(文化庁長官)
運営委員 青木 保(国立新美術館長)
建畠 哲(多摩美術大学長)
古川 タク(アニメーション作家)

審査委員 **アート部門**
石田 尚志(画家/映像作家/多摩美術大学准教授)
植松 由佳(国立国際美術館主任研究員)
佐藤 守弘(視覚文化研究者/京都精華大学教授)
中ザワ ヒデキ(美術家)
藤本 由紀夫(アーティスト)

エンターテインメント部門
飯田 和敏(ゲーム作家/立命館大学映像学部教授)
宇川 直宏(現在美術家/京都造形芸術大学教授/ DOMMUNE 主宰)
工藤 健志(青森県立美術館学芸員)
東泉 一郎(デザイナー/クリエイティブディレクター)
米光 一成(ゲームデザイナー)

アニメーション部門
大井 文雄(アニメーション作家)
小出 正志(アニメーション研究者/東京造形大学教授)
高橋 良輔(アニメーション監督)
森本 晃司(アニメーション監督)
山村 浩二(アニメーション作家/東京藝術大学大学院教授)

マンガ部門
犬木 加奈子(マンガ家/大阪芸術大学客員教授)
門倉 紫麻(マンガライター)
すがや みつる(マンガ家/京都精華大学教授)
古永 真一(文学者/首都大学東京准教授)
松田 洋子(マンガ家)

選考委員 **アート部門(予定)**
小町谷 圭(メディアアーティスト/札幌大谷大学専任講師)
中尾 智路(福岡アジア美術館学芸員)
服部 浩之(青森公立大学 国際芸術センター青森(ACAC)学芸員)
松井 茂(詩人/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)准教授)
鷲田 めるろ(金沢 21 世紀美術館キュレーター)

5.平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭 募集概要

募集部門 4部門(アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ)

アート部門

デジタル技術を用いて作られたアート作品

[インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、映像インスタレーション、グラフィックアート(デジタル写真を含む)、ネットアート、メディアパフォーマンス等]

エンターテインメント部門

デジタル技術を用いて作られたエンターテインメント作品

[ゲーム(テレビゲーム、オンラインゲーム等)、映像・音響作品(ミュージックビデオ、自主制作・広告映像等)、空間表現(特殊映像効果・演出、パフォーマンスを含む)、ガジェット(プロダクト、ツールを含む)、ウェブ(ウェブプロモーション、オープンソースプロジェクトを含む)、アプリケーション等]

アニメーション部門

アニメーション作品

[劇場アニメーション、短編アニメーション、テレビアニメーション、オリジナルビデオアニメーション(OVA)等]

マンガ部門

マンガ作品

[単行本で発行されたマンガ、雑誌等に掲載されたマンガ(連載中の作品を含む)、コンピュータや携帯情報端末等で閲覧可能なマンガ、同人誌等の自主制作のマンガ等]

募集期間 2015年7月7日(火)～9月9日(水)日本時間 18:00 必着

応募条件 ※応募する作品が下記に該当するかを必ず確認の上でご応募ください。

2014年9月3日(水)から2015年9月9日(水)までの間に完成した作品、または、すでに完成してこの期間内に公開された作品。

※更新、リニューアルされた作品で上記期間中に完成、または発表された作品も応募可能です。

※応募する作品数に制限はありませんが、同一の作品を複数の部門に重複して応募することはできません。

応募者は作品の著作権を有することが必要です。

代理の方が応募する場合は、必ず著作権者に承諾を得てください。

※応募申込をもって、応募者および作者の同意を得られたものとします。

※募集要項・公式ウェブサイトに記載された応募規定特記を必ずお読みいただき、同意の上でご応募ください。

各 賞 高い芸術性と創造性を基準として、部門ごとに大賞、優秀賞、新人賞を選定します。

また、審査委員会の推薦により、メディア芸術分野に貢献のあった方に対して、功労賞を贈呈します。

メディア芸術祭賞(文部科学大臣賞)

大 賞：賞状、トロフィー、副賞60万円

優 秀 賞：賞状、トロフィー、副賞30万円

新 人 賞：賞状、トロフィー、副賞20万円

功 労 賞：賞状、トロフィー

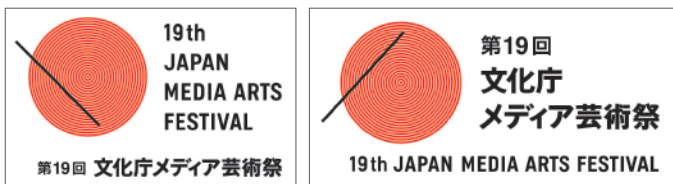
このほか、優れた作品を審査委員会推薦作品として選定します。

平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭

広報用素材貸出申請書

「第19回文化庁メディア芸術祭」広報用として、下記のデータを御用意しております。貸出を御希望の方は、こちらの申請書に必要事項と希望素材のアルファベットを○で囲み、文化庁メディア芸術祭事務局広報担当[hilo Press内]までお送り下さい。

[A] ロゴ式(zip) ※使用規定(pdf) 同封



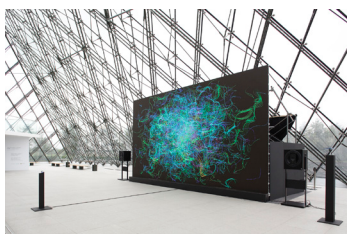
[B] ポスター・チラシ画像



[C] 広報画像(zip)・・・昨年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品画像[1] - [4].jpg

昨年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子[5] - [8].jpg ※使用規定(PDF) 同封

[1] アート部門優秀賞



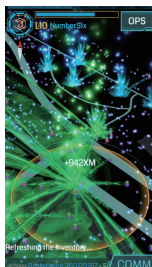
[1] <クレジット>

Photo : Keizo Kioku, Courtesy of Creative City Sapporo
International Art Festival Executive Committee

<キャプション>

第18回文化庁メディア芸術祭
アート部門優秀賞
『センシング・ストリームズー 不可視、不可聴』
坂本 龍一/真鍋 大度

[2] エンターテインメント部門大賞



[2] <クレジット>

Photo : Google's Niantic Labs
<キャプション>
第18回文化庁メディア芸術祭
エンターテインメント部門大賞
『Ingress』
Google's Niantic Labs
(創業者 : John HANKE)

[3] アニメーション部門大賞



[3] <クレジット>

©Ural-Cinema
<キャプション>
第18回文化庁メディア芸術祭
アニメーション部門大賞
『The Wound』
Anna BUDANOVA

[4] マンガ部門大賞



[4] <クレジット>

近藤ようこ・津原泰水/
KADOKAWA刊
<キャプション>
第18回文化庁メディア
芸術祭マンガ部門大賞
『五色の舟』
近藤 ようこ/原作 : 津原 泰水

[5]



[6]



[7]



[8]



<キャプション/[5] - [8] 共通>

昨年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展の様子 提供 : 文化庁メディア芸術祭事務局

<広報画像のご使用にあたって>

※広報画像のご使用は「第19回文化庁メディア芸術祭」をご紹介いただく場合に限らせていただきます。フェスティバル終了後は使用できません。

※広報画像[1] - [8]は全図でご使用ください。部分使用や作品に文字や他のイメージを重ねることはお控えください。

※指定クレジットを必ずご記載いただきますようお願いいたします。またキャプションを可能な限りご記載いただきますようお願いいたします。

※校正ゲラを広報担当までお送りください。

貴社についてお知らせください

○貴社名 _____

○ご担当者名 _____ 様

○ご住所 〒 _____

○Tel _____

○ご掲載・放映の予定日 _____ 月 _____ 日

○媒体名 _____

○所属部署 _____

○Email _____

○Fax _____

<個人情報の取り扱いについて>

御記入いただきました個人情報は、文化庁メディア芸術祭広報からの情報配信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはいしません。

広報問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 広報担当 [hilo Press内] 鎌倉・土井・伊藤

Email : jmaf19-pr@hilopress.net Tel : 03-5577-4792 Fax : 03-6369-3596 ※受付時間 : 平日10時~18時

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-18-11-905